

新市立病院整備市長タウンミーティングにおける意見概要

会場：とどろみの森学園 1階 プレイルーム

令和4年12月27日 午後7時開催

No.	ご意見・質問内容	回答内容
1	現市立病院開院から41年間の病院収支についての総括があって初めて、今後の目標が設定できるのではないかと思うが、どうか。	平成25年には一度単年度黒字を達成しましたが、それ以外は赤字であり、平成30年度と令和元年度には競艇事業会計から合計13億円の長期借入を行いました。過去3回経営改革プランを立てましたが、効果を発揮できなかったのが実態です。一方、新病院については、ゼロからそのあり方を議論し、国が推し進める再編統合により病床数、診療科を充実させ、持続可能で質の高い医療を提供できるように整備することを目標としています。
2	再編統合のイメージとして、資料にあるような80床の病院が統合後350床の病院を適正に管理、運営できるのか。民間経営になると利益優先の医療になるのではないか。	資料にある再編統合相手はあくまでも仮定のものです。指定管理による運営では、人材確保や医療機器の一括購入など民間経営のノウハウが活かされると考えています。また、民間経営であるから利益優先になることはありません。全国には指定管理により運営される病院が約80ありますが、優秀な民間法人の経営により、病床数、診療科を充実させ経営改善された事例が多数あります。これまで7回にわたって開催した箕面市新市立病院整備審議会でも、持続可能で質の高い医療を提供するため、るべき姿はどうかという観点から議論されたところ、指定管理者制度を選択することが望ましいという結論になったものと受け止めています。
3	新病院の整備費として約300億円必要になる可能性があるとのことだが、国から40%の補助を受けたとしても残りの60%は市が負担することになるなら、現在箕面市が抱えている市債が増えていくと思う。どう返済していくのか。	本市の最も大きな事業である北大阪急行線の延伸事業に関しては、国・府・市・鉄道事業者と負担割合を取り決めており、市の負担分は、基金と競艇事業からの繰入れで確保の見通しが立っています。新病院の整備費については、国から40%の交付税措置を受け、残りの60%を、市と指定管理者とで負担します。指定管理法人の公募時に、指定管理者の負担する割合について提案を受ける予定です。再編統合のスキームを活用することにより、国からの交付税措置が優遇されるので、市の負担が軽減されることになります。
4	現市立病院の跡地利用については何か計画はあるか。	現市立病院の跡地には、学校を整備する予定です。
5	民間病院と統合する場合、地域の医師会や病院との関係、連携はうまくいくのか。	箕面市新市立病院整備審議会の中で、医師会の会長より地域の各クリニックが安心して紹介できるように400床程度の病院が必要だとご意見をいただきました。新病院整備にあたっては、病床数の確保と診療科の充実による救急の受入れ強化も必要です。また、大阪大学としっかりと連携をとることで医師の派遣を受け人員を確保することも必要です。これらのことを通して、地域から信頼される病院を目指します。
6	指定管理になりいろいろと改善されれば、他市から多くの来院者があるかもしれない。その場合、箕面市民優先で入院させてもらえるのか。箕面市民であれば受診料が安くなる等、市民のメリットを考慮して欲しい。全室個室化は維持管理費、建築費が高くなるデメリットもあるのではないか。総合的に市民にとって利便性が高まるように検討して欲しい。	受診に来られたかたを断らずに受入れることが原則ですので、当然他市からの患者も受け入れます。ただし、クリニックからの紹介を受けて受診することが基本となるので、箕面市内の開業医としっかりと連携をとることで、結果として箕面市民に、よりメリットを享受いただけると考えます。新病院における有料個室料金については今後の検討になりますが、市内のかたと市外のかたで差を設けることは継続していくたいと考えています。
7	新市立病院は多くの箕面市民にとって利便性は向上するが、森町の住民にとって市立病院にいくためにグリーンロードの通行料金がかかるため、あまりメリットがない。	通行料金の適正化のため、NEXCO西日本への移管に向けて今後国とも協議していきます。
8	市立病院の累積赤字は120億円のことだが、指定管理法人の運営で回復できるのか。運営不可能になった場合はどうなるのか。	万が一倒産した場合は、市が病院事業を継続する対策を取りますが、まずは、そのようなことが起こらないよう、指定管理法人を公募する際に財政基盤も含めてしっかりと調査した上で選定することが最も重要であると考えています。

No.	ご意見・質問内容	回答内容
9	最新鋭の医療が必要であれば大阪大学医学部附属病院や大阪市内の病院に行く。箕面市立病院として、市民にとって本当に必要なものは何かを検討し、国からの補助を受けられるという理由ではなく財政面も含めてしっかりと分析して見極めて整備して欲しい。	近隣の公立病院、地域のクリニックとうまく連携、機能分担しつつ、大阪大学との親和性をさらに強固にし、医師を確保しながら医療提供の充実を図り、市民の皆様へ充実したサービスを提供できるように取り組んでいきます。また、可能な限り国等からの財源を確保することは市税を預かる立場としては重要なことだと考えています。
10	LGBTの問題は今後さらに複雑になってくると思う。その点に対しての対応はどうか。	市民の意識や啓発という面は、市の人権担当部署が対応すべき部分がありますが、医療としての対応が必要で、それが市立病院で可能な範囲であれば対応することになります。
11	新病院では診療科の新設により対応が拡充されることが期待できるが、近年欧米では「足医療」も発展ってきており、そういう新しい医療に対しての体制はどうなるか。	日本では健康寿命の延伸が課題になっており、フレイル予防が呼ばれているところです。今後船場東地区には大阪大学、大阪船場纖維卸商団地協同組合、箕面市が連携し、健康寿命の延伸・ヘルスケア拠点を整備する予定です。平均寿命と健康寿命を近づけられるよう、新病院とともに健康をテーマにしたまちづくりに取り組んでいきます。
12	箕面市では子育てに重点を置いているが、どうせやるなら全国No.1を目指して欲しいと思っている。高齢者よりも、少子化対策や教育など子どもたちに税金を使って人が集まる自治体にして欲しい。	箕面市では、緑豊かで利便性の高いまち、子育て・教育日本一を目指して取り組んでいます。子育て、教育に力を入れることにより若い世代が定住移入することが最も重要と考えています。将来の世代につけを残すことのないよう、次世代に向けての改革はミッションであると認識しています。